滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目１－１　滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会　発行責任者／貝吹行則
https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters/

目次

経済学部・経済学研究科の教育研究について
経済学部長・・・・１～２
データサイエンス学部・大学院の近況について
ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部長　・２～３
学生活動だより　・・・・・・４～６
国際交流（ｼﾘｺﾝﾊﾞﾚｰ研修）　・・・７
国際交流（ﾀｲｽﾀﾃﾞｨｯｱｰ）　・・・・８
ゼミナール紹介　・・・・・９～１０
資格取得等報奨制度　・・・・・１１
報奨金受給者の声　・・・・１２

経済学部・経済学研究科の教育研究について

経済学部長　能登　真規子



●学部紹介

「ゆるやかなつながり」を育てる

滋賀大学経済学部の教育・研究活動に、平素より深いご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、大学を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。少子化の進行、デジタル技術やＡＩの急速な発展、働き方の変化を背景に、文部科学省などでも２０４０年を見据えた高等教育のあり方が議論され、教育の質の向上とともに、社会との連携や生涯を通じた学びの充実が重視されるようになっています。大学は、二十歳前後の学生が４年間学ぶだけの場ではなく、社会人が学び直す「リスキリング」や「リカレント教育」の場にもなっています。

経済学部では、総合経済学科の下に経済・経営・社会システムの３専攻を置き、学生は幅広い専門科目を学んでいます。活発なゼミ活動や、地域・企業と連携した授業での経験は、卒業後に新しい課題に向き合うときの土台にもなると考えています。

こうした社会や大学の役割の変化のなかで、滋賀大学、特に彦根キャンパスで今、取り組みを進めているのが、在学生・卒業生と大学との「ゆるやかなつながり」の構築です。

同じゼミの仲間や部活動の友人との関係は、卒業後も長く続く、かけがえのないものです。一方で、学年やゼミ、部活・サークルが違えば、同じキャンパスで学んだ卒業生同士でも、互いを知る機会はあまり多くはないかもしれません。けれども、仕事で新しい分野に挑むときや、転職や地元へのＵターンを考えるとき、思いがけない助けになるのは、親しい友人よりも少し距離のある知人であることが少なくないようです。同じ大学の卒業生同士という関係は、まさにそうしたつながりです。

滋賀大学経済学部には、彦根高等商業学校の創設以来、百年を超える歴史があります。陵水会員である卒業生の皆様には、講義へのご協力、奨学金や研究助成、学生の海外交流活動や課外活動への支援など、長年にわたり、さまざまな形で大学を支えていただいています。「滋賀大経済の出身です」という一言で会話が始まる関係の土台は、すでに先輩方が築いてくださっています。

この土台を、今の時代に合った形で広げていくために、２０２５年度に経済学部・経済学研究科の公式ｎｏｔｅを、今年度（２０２６年度）に彦根キャンパスの公式LinkedIn ページ「Shiga University Economics & Data Science」を開設しました。ｎｏｔｅでは、ゼミ紹介や学生たちのさまざまな取り組み、教員の研究解説を発信しています。LinkedIn は、仕事や専門的な活動を中心とするＳＮＳです。海外では名刺代わりに利用されているようです。卒業生・修了生、在学生、

教職員、企業や自治体の方々が学年や所属を越えて互いを知ることのできる場として育てていきます。



学生にとっては、先輩方の仕事を知り、自らの進路・生き方を考えるきっかけにもなると期待しています。たとえば、卒業生が自らの仕事を紹介する記事を在学生が読み、そこから学年の離れた先輩に進路の相談をする。そうした小さな出会いの積み重ねが関係を広げるでしょう。直接の友人関係を超えた、卒業生同士、そして卒業生と大学とのゆるやかな関係をいかにつくり、保ち続けるか。それが、これからの大学に求められている役割の一つだと考えています。

もちろん、ＳＮＳを開設するだけで交流が生まれるわけではありません。ゆるやかなつながりは、無理に強めようとすると続かず、放っておけば途切れてしまいます。日常的に情報を届け、気軽に立ち寄れる接点をつくり続けること、卒業生の皆様が、年に一度でも近況を伝え合える開かれた場を用意し続けることが大事です。その積み重ねが、いつか卒業生が大学に戻って学び直したり、教員や学生と新しい活動に取り組んだりする機会につながればと願っています。大学の側も、社会で経験を重ねた卒業生から多くを学ぶことができるはずです。

今年の秋の滋大祭では、ありがたいことに、在学生と卒業生をつなぐ企画・催しが複数、開催されました。コロナ禍でいったん途絶えかけた学生活動も復活してきており、喜ばしい限りです。

保護者の皆様にも、在学中の学びを見守っていただくとともに、卒業後も続いていく大学とのつながりに、ご関心をお寄せいただければ幸いです。今後とも、滋賀大学経済学部へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

データサイエンス学部・大学院の近況について

データサイエンス学部長
市川　治



●学部の教育研究

今年度は、入学定員が１５０名となった学年がゼミ選考を迎えます。ゼミの数も徐々に増えていますが、希望するゼミへの選考は、これまで以上に競争が高まることが予想されます。昨年度からは成績（ＧＰＡ）を重視する選考方針となり、日頃の学習の積み重ねが一層大切になっています。９月末には２日間にわたってゼミ紹介イベントを開催し、多くの学生が参加しました。

本学部では、生成ＡＩ時代に対応する人材を育成するため、継続的に教育内容を更新しています。今年度は「生成ＡＩによるデータ分析」と「生成ＡＩ活用演習」を新設しました。データ分析や業務効率化、アプリ開発への生成ＡＩの活用を学び、学習や業務で使いこなす力を養います。

一方、生成ＡＩの出力を鵜呑みにせず、真偽や妥当性を自ら判断する力も欠かせません。最終的な意思決定の責任は人間にあることを踏まえ、適切な活用方法を指導するとともに、レポートやゼミでは対話を通じて学生本人の理解を確認します。

また、教員の増員を受け、「マーケティング・サイエンス」や「犯罪予防と社会安全政策」など、応用領域の知識を深める科目も新設しました。学生の多様な関心に応える一方、増加する科目の整理も課題となっています。

● 大学院の教育研究

大学院データサイエンス研究科では、今年度、博士前期課程に７４名、博士後期課程に４名の新入生を迎えました。社会人や他分野出身の学生も多く、６月18日に開催した新入生交流会は、年代や背景の異なる学生同士が交流を深める機会となりました。

教育面では、多様な学生の学びを支えるため、新たな科目を開講しました。統計学分野では、発展的な内容を扱う「統計学特論」に加え、社会人や他大学からの入学者を対象とする「統計学自主ゼミ」を設け、これまでの学習経験に応じて学べるようにしています。ＡＩ分野では、近年のＡＩ技術の理解に必要な理論を学ぶ「深層学習特論」と、実践的な活用方法を学ぶ「機械学習と生成ＡＩによるビジネスデータサイエンス」を開講しました。また、「社会調査論」と「社会調査実践論」も、より実践的な内容を取り入れた構成に改めています。

研究環境の整備も進めています。建設中の「データサイエンスみらい創造館」は、外装がほぼ完成し、現在は12月頃の完成に向けて内装工事が進んでいます。２階には大学院生研究室と講義室、３階には大学院生研究室を設け、大学院生がより充実した環境で研究に取り組めるようになります。

● 入学者選抜

入学試験は、６月の３年次編入試験（高等専門学校卒業者対象）を皮切りに、９月・10月に総合型選抜Ⅰ・Ⅱを実施しました。今年度の総合型選抜の志願者数は計１３３名（Ⅰ：一般枠７３名、女子枠５７名、Ⅱ：３名）で、昨年度の１０７名から約２４％増加しました。昨年度も前年度比２５％増であり、２年連続で高い増加率となっています。

また、総合型選抜で入学した学生を対象に、入学後の学修状況の追跡調査を行いました。入学から１年経過後の成績（ＧＰＡ）は、一般選抜で入学した学生と同様の分布であったと報告されています。年明けには、一般選抜の前期・後期試験を実施します。入学者の出身地域は近畿・東海を中心とする西日本が多いものの、関東や北海道など、遠方からの入学者も一定数います。

● オープンキャンパス

７月25日（土）、彦根キャンパスでオープンキャンパスを開催しました。本学部のプログラムには、延べ１，１２１名が参加しました。模擬講義では、犯罪予防のためのデータ分析、産官学連携による社会実装、人間関係の可視化、社会が求めるデータサイエンス人材の育成、データに基づくマーケティング、ＡＩを活用した創薬研究の６つのテーマを取り上げ、本学部の教育研究の幅広さを紹介しました。

また、交通安全ＶＲ、空間コンピューティング・量子技術、ＡＩロボットの体験展示も行い、多くの来場者でにぎわいました。今回はコロナ禍前と同様、３０名余りの教員が参加し、学部を挙げて来場者を迎えました。データサイエンス研究科の説明会にも３０名を超える参加者が集まり、大学院進学への関心の高さがうかがえました。

今後も、教育・研究環境の充実を図るとともに、学部・大学院での学びの魅力を広くお伝えしてまいります。

【執筆協力：松井副学部長、佐藤（正）副学部長、佐藤（健一）副学部長、飯山研究科長】

学生活動だより

滋賀大学学長賞

８月４日、彦根キャンパスにおいて、令和８年度第１回滋賀大学学長賞授与式を挙行しました。学長賞は、学業、課外活動、文化・社会活動等で顕著な業績、成果を挙げた学生等を表彰するものです。

授与式では、学生支援課より選考結果の概要について説明があり、竹村彰通学長より今回受賞の学生に表彰状と盾、副賞が授与されました。授与の後、学長から祝辞があり、日頃努力を重ね大きな成果を上げたことに対して労いの言葉がありました。続いて、受賞者からそれぞれ謝辞が述べられました。

授与式後は、学長と懇談の場が設けられ、受賞者のうち佐野洋史ゼミCチームのメンバーからは日本学生経済ゼミナールインター大会に参加したこと、山下悠ゼミナールトライアングルチームからはStudent Innovation College冬カン大会に参加したこと、体育会からは「陵水プラス！！」を作成したことについて説明があり、和やかに懇談が行われました。

受賞理由は以下のとおりです。

●佐野洋史ゼミCチーム
（経済学部４年　岩崎里音さん・大坂拓也さん・小田柿快陸さん・平澤りあさん・平田鈴歩さん・堀颯吾さん）（団体）
第７１回日本学生経済ゼミナールインター大会決勝大会　優秀賞

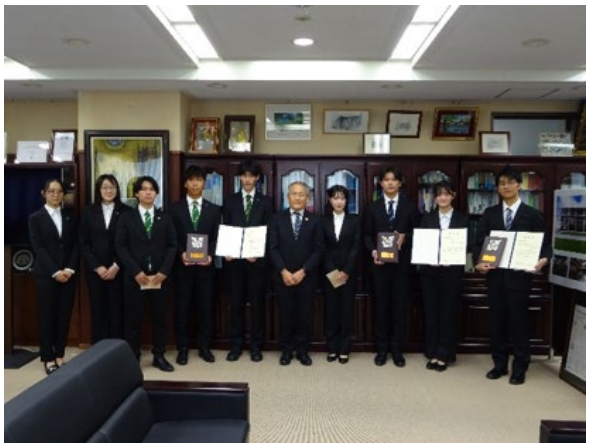
●山下悠ゼミナールトライアングルチーム
（経済学部４年　浅田梨愛良さん・鈴木隼士さん・松尾優莉さん）（団体）
第２０回 Student Innovation College 冬カン大会　プラン・テーマ　一位

●滋賀大学第６３代体育会本部（彦根キャンパス）（団体）
「陵水プラス！！」作成

●荒川陽彩さん（経済学部４年）
第６８回全日本女流アマチュア囲碁選手権滋賀予選優勝
滋賀県囲碁普及活動賞受賞



学長と懇談



学長と記念撮影

滋和戦

６月20日、21日、第５９回滋和二大学学長杯争奪総合定期戦が開催されました。この定期戦は昭和４１年から続く本学と和歌山大学の伝統ある定期戦で、今年で６０周年を迎えます。この定期戦では、毎年体育会系の部活動を中心に様々な競技で熱戦が繰り広げられます。

今年度は本学が当番校を務め、選手として出場する学生たちは和歌山大学選手団を迎え入れ、この２日間を中心に白熱した試合を展開しました。

当日は両大学関係者での視察も実施され、ＦＡＳアリーナ（彦根キャンパス体育館）で実施されたバドミントンでは目にも止まらない高速ラリー、彦根キャンパステニスコートで実施されたソフトテニスでは部員同士が声を掛け合い協力するダブルス、彦根キャンパス弓道場で実施された弓道では静寂な中での美しく鋭い弓射、彦根キャンパス運動場で実施されたラグビーでは大きな体がぶつかり合う激しいボールの奪い合いが見ら

れ、どれも普段のキャンパスではなかなか目にすることがない学生たちの一面が多く見られました。

また、真剣勝負の後では両大学の学生同士での交流戦や懇親会なども実施され、両大学の学生間での交流も深めました。

閉会式直前までどちらの大学が勝利するかが分からない僅差の大会となりましたが、今年は１３勝８敗７分で本学が総合優勝を果たしました。

本学が総合優勝を果たすのは２０１４年以来１２年ぶりのことであり、直近の戦績では９連敗となっておりました。今回１０連敗を阻止し、歴史的な勝利を収めましたが、この勝利に満足することなく、来年は和歌山の地でも勝利を収められるよう、選手団一丸となって頑張っていきましょう！！

和歌山大学の皆様におかれましては、今大会のために遠方よりお越しいただきありがとうございました。来年は和歌山大学で開催となり、選手団がお世話になりますが、和歌山大学の皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

成　績　表

	滋賀大学		和歌山大学	
	勝負	得点	勝負	得点
合氣道	△	1	△	1
アメリカンフットボール	○	2	×	0
空手道(男子)	○	2	×	0
空手道(女子)	○	2	×	0
弓道（男子）	○	2	×	0
弓道（女子）	×	0	○	2
剣道（男子）	×	0	○	2
剣道（女子）	△	1	△	1
硬式テニス（男子）	○	2	×	0
硬式テニス（女子）	×	0	○	2
硬式野球	△	1	△	1
サッカー	○	2	×	0
柔道	×	0	○	2
準硬式野球	△	1	△	1
少林寺拳法	△	1	△	1
水泳	○	2	×	0
ソフトテニス（男子）	○	2	×	0
ソフトテニス（女子）	×	0	○	2
卓球（男子）	○	2	×	0
卓球（女子）	○	2	×	0
バスケットボール（男子）	×	0	○	2
バスケットボール（女子）	×	0	○	2
バドミントン	○	2	×	0
バレーボール（男子）	△	1	△	1
バレーボール（女子）	×	0	○	2
ハンドボール（男子）	△	1	△	1
ラグビー	○	2	×	0
陸上競技	○	2	×	0
総合	１３勝　８負　７分	３３	８勝　１３負　７分	２３

＜注意＞　○：勝＝２点　　×：負＝０点　　△：引分け＝１点



開会式


学長杯授与

滋大祭2026 ～活気横溢～

10月24日（土）・25日（日）の2日間、「第６０回滋大祭～活気横溢（かっきおういつ）～」を彦根キャンパスにて開催しました。滋大祭は、今年で第６０回を迎える伝統ある学園祭です。

今年の滋大祭では、昨年より大幅に増えた模擬店をはじめ、体育館で実施した新企画「レーザータグ」、軽音楽部などの学生団体によるライブやパフォーマンス、昨年好評を博したボディコンテストなど、多彩な企画が実施されました。キャンパス内は終日にわたり多くの来場者で賑わい、学生たちの活気溢れる姿と来場者の笑顔が溢れる2日間となりました。

また、ご当地キャラクターの登場や浴衣の着付け体験、能楽など、日本文化に親しめる企画も行われました。教室では学生団体による展示などの企画が行われ、日頃の活動成果を発表する貴重な機会となりました。学生だけでなく地域の方々など幅広い世代の来場者が足を運び、それぞれの企画に関心を寄せていました。

1日目の17時からは、世界メンタルヘルスデーに合わせて、滋賀大学講堂を、心の健康を象徴するグリーンに一夜限りで特別ライトアップしました。幻想的な光に包まれた講堂は多くの来場者の注目を集め、学生・教職員・地域住民の皆さまが心の健康について考える機会を提供しました。

2日目にはロックバンド「オレンジスパイニクラブ」によるスペシャルライブが開催され、会場は大いに盛り上がりました。

さらに、夕方には昨年大好評だった「ＴＨＥ・マッチョ　ＭＡＮ」が今年も開催され、迫力満点のパフォーマンスに会場は大盛況でした。また、滋大祭のラストを飾る大抽選会も実施され、多くの来場者が参加し、会場は最後まで賑わいを見せました。

記念すべき第６０回となった滋大祭は、学生たちの創意工夫と地域の皆さまの温かいご支援により、充実した2日間となりました。ご来場いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。



大抽選会



ステージ企画

【滋大祭実行委員長のコメント】

今年の滋大祭は「挑戦」の一年でした。模擬店の増加や新企画の導入、メインステージの移設など、例年以上の規模で開催することができました。すべてが思い通りに進んだわけではありませんが、挑戦したことに大きな価値があったと感じています。この挑戦を支えてくださった関係者の皆様、幹部、実行委員全員に心から感謝するとともに、来年度の滋大祭がさらに発展することを願っています。

国際交流

シリコンバレー研修

経済学部　教授　金　秉基

２０２６年８月10日～21日、シリコンバレーの中心に位置するサンノゼ州立大学において「2026 Silicon Valley Excellence in Technology & Operations Management Program」の研修を実施しました。この研修には、滋賀大学の経済学部学生６名、ＤＳ学部学生２名、教育学部学生１名、経済学研究科大学院生１１名の２０名が参加し、イノベーション、マーケティング、スタートアップ、ＡＩなどについて学びました。



授業風景

研修は、サンノゼ州立大学のSilicon Valley Center of Operations and Technology Managementにて実施され、ＡＩやアントレプレナーシップなどの専門家、シリコンバレーで起業、経営しているＣＥＯなどが講師として学生を指導しました。参加学生（滋賀大学２０名、韓国の大学１７名、ドイツの大学１０名）は８チームに分かれて商品開発と起業を目指したプロジェクトに取り組みました。最終日には、イノベーティブな商品やサービスをチーム全員で協力して作り、それを商品化するというプロジェクトをプレゼンテーションしました。起業と資金調達を想定したプレゼンテーションは、今後社会で活躍する学生にとってはかけがえのない経験でした。



企業訪問

また、シリコンバレーのビジネス文化を理解するためのカンパニーツアーを行い、Intel、Google、Appleなどの企業を訪問して、これらの設立背景や成長過程などについて学びました。サンフランシスコ観光では、ゴールデンゲートブリッジ、デ・ヤング美術館などを訪れました。自由時間である土曜日と日曜日には、スタンフォード大学を訪問したり、ＭＬＢを観戦したり、ヨセミテ国立公園を訪れたりして楽しみました。



チームワーク

プログラムの内容は、シリコンバレーならではのものが多く、学生にとって非常に有益なものでした。参加学生からは「社会人として欠かせない知識と経験を得ることができた」との声が多く寄せられ、非常に高い評価と満足度を得ました。



修了式

タイスタディツアー

データサイエンス・ＡＩイノベーション研究推進センター
特任教授　深谷良治

―現地大学・企業での研修と陵水会タイ支部との交流―

２０２６年８月31日（月）から９月９日（水）までの１０日間、タイ・バンコクにおいてスタディツアーを実施しました。データサイエンス学部の学生５名、データサイエンス研究科の大学院生３名、経済学部の学生２名の計１０名が参加し、私とチャン准教授、千代延助教の３名が引率しました。

本ツアーは、現地の大学や企業での研修・交流を通じて、データサイエンス分野における国際的な視野を養うことを目的としたものです。滋賀大学とＭＯＵ（Memorandum of Understanding：大学間交流協定）を締結しているモンクット王工科大学ラートクラバン校（King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang、以下「ＫＭＩＴＬ」）の学生とのワークショップをはじめ、ＮＴＴ　ＤＡＴＡ（Thailand）やタイを代表する複合企業であるＣＰグループ（Charoen Pokphand Group）を訪問しました。企業におけるデータやＡＩの活用について学ぶとともに、最新のデジタル技術を実際に体験する貴重な機会となりました。

９月１日には、陵水会タイ支部の皆様との交流会・夕食会を開催しました。同支部からは、代表の川村様をはじめ、田邉様、八尾様、堂本様、内田様の５名にご参加いただきました。

交流会では、滋賀大学での学生時代の思い出や、タイで働くことになった経緯、海外でのビジネス経験、現地で経験された成功や失敗など、幅広いお話を伺いました。



陵水会タイ支部の方々との交流会の様子

また、夕食会では、今後の学生生活の過ごし方や将来のキャリアについて、先輩方から親身な助言をいただきました。海外の第一線で活躍されている先輩方の率直なお話は、学生たちが自らの将来を考える上で、大きな刺激となりました。



集合写真

参加した学生からは、「自分自身のキャリアを考える上で大変参考になった」「これから挑戦に満ちた人生を歩みたいと思った」「実際に現地へ足を運び、自分の目で見ることの大切さを知った」「成功体験だけでなく、失敗体験についても率直に聞くことができて良かった」といった感想が寄せられました。

さらに、「先輩方とのご縁や人脈を大切にしたい」「日々の感動を大切にし、発想力を磨きながら精進していきたい」「自分では思いつかなかった視点や発想の切り口に触れ、多くのことを学ぶことができた」との声もありました。海外で活躍する先輩方との交流は、学生たちにとって、世界に目を向け、自らの可能性を広げる大きなきっかけとなったようです。

最後になりましたが、ご多用の中、学生たちのためにこのような貴重な交流の機会を設けてくださった陵水会タイ支部の皆様に、心より御礼申し上げます。また、本ツアーの実施にあたり多大なるご支援を賜りました滋賀大学後援会の皆様、ならびに学生たちを温かく受け入れてくださった現地大学・企業関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。皆様のお力添えにより、学生たちは現地でしか得ることのできない多くの学びと気づきを得ることができました。今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ゼミナール紹介

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、経済学部は「専門演習Ⅰ～Ⅳ」、データサイエンス学部は「実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ」「上級実践価値創造卒業演習Ⅰ・Ⅱ」といった一連の４つの授業科目を意味し、これらの科目は、２回生の後半に各学生の選択希望に基づき、受講クラスが決定します。３回生春学期から授業が始まり、以後継続して４回生秋学期まで４セメスター連続して履修することになります。

ゼミは、２年間、同一のクラスで同一の教員が担当し、経済学部では、担当教員の専門分野の学問的内容について、受講生の学習・研究を指導することになっています。データサイエンス学部では、企業等と連携し、課題解決や価値創造を試みるために収集したデータのチェックを行い、データを分析し、得られた結果を考察し、問題解決を提案することを目的としています。

ゼミは少人数教育の授業科目ですが、クラスでの研究報告、発表を担当することで主体的な学力とプレゼン能力が養われます。また、クラス内での議論や共同研究、報告の準備作業、ゼミ生間の日常の交流などを通じて、論理面だけでなく総合的なコミュニケーション能力や人間関係を形成する力も培われます。それゆえ、ゼミは大学４年間の後半に配置されている主要な授業科目であり、専門教育としてだけでなく、ゼミ担当教員が学生生活や進路の相談、指導を行うことで、学生指導の面からも総合的に重要な役割を果たしています。

冨田ゼミナール

経済学部　准教授　冨田　健一

私の専門は情報通信分野です。誤り訂正符号の性能を理論的に評価する方法や、規模の大きな符号の重み分布などの特性を調べる研究をしています。一方、ゼミは自身の研究テーマに限定せず、論理的な思考力を養うための学びの場と位置づけています。

滋賀大学経済学部には、情報科学分野を広く学べる情報管理学科がありました。データサイエンス学部の設立に伴う学科再編によって情報管理学科はなくなりましたが、私は、いわゆる文系学部であっても、プログラミングをはじめとする論理的思考力を養う演習は重要であると考えています。また、そのような学びに興味を持つ学生も必ずいると思っています。

私のゼミは「じっくり考える力」と、考えた内容を「きちんと伝える力」を伸ばすことを目的としています。例えば、一つの問題について一週間じっくり考えることや、自分の考えを論理的に組み立て、口頭や文章でわかりやすく伝えることを大切にしています。これらの力は、どのような分野に進むにしても必要になるものです。私のゼミが、在学中にこれらの力を伸ばす一助になればと思っています。



ゼミの様子

学生からは、プログラミングを学ぶゼミだと思われることが多いのですが、プログラミングはあくまでも問題解決のための手段であり、大事なのは解法を論理的に考える力です。とはいえ、最初はプログラミングの基礎を学ぶことから始めます。ここでも「じっくり考える力」と、コンピュータに対して「きちんと伝える力」を伸ばしていきます。その後、アルゴリズムやデータ構造などを学び、実際に多くのプログラムを組むことを通して、「考える」→「思いつく」→「試してみる」→「失敗する」というサイクルを何度も体験します。こうした試行錯誤の末に、「う



ゼミの様子

飯山ゼミナール

データサイエンス学部
教授　飯山 将晃

～コンピュータの目で世界を『観る』～

飯山ゼミでは「コンピュータの目で世界を『観る』」を看板に掲げ、画像処理・画像認識の研究に取り組んでいます。スマートフォンや防犯カメラ、人工衛星、ドローンなど、私たちの身の回りには膨大な画像・映像があふれています。こうした画像に「何が写っているか」「何が起きているか」をコンピュータに理解させるのが画像認識の技術であり、近年は深層学習の発展により大きく進歩し、さまざまな産業で実用化が進んでいます。

学部ゼミでは、まず画像処理・画像認識の研究に必要な知識と技術を身に付けます。実際にデータを扱ってみて初めてわかることも多いため、教科書を輪読するだけでなく、自分でプログラムを書き、画像を処理しながら学ぶことを重視しています。

その後、教員との面談を通じて各自の研究テーマを決め、卒業研究を進めていきます。テーマは教員が提案するものから選ぶこともできますし、学生自身の興味をもとにテーマを決めることもできます。これまでの卒業研究では、衛星画像からの車両や道路の検出、画像生成ＡＩを用いたファッションコーディネートの検索、要約動画の自動生成、登山データの分析、深層学習による海面水温の予測など、多彩なテーマに取り組んできました。

研究室では、企業や他の研究機関との共同研究も数多く行っています。例えば、漁業者や企業と連携し、漁船から得られるデータと海洋の観測データをＡＩで分析して「良い漁場」を予測する研究に取り組んでいます。また、海洋分野の研究者と協力して、空撮画像や水中画像から藻場を自動計測する研究も進めています。学生にとっては、実社会のデータと課題に触れながら、データサイエンスが社会にどう役立つのかを肌で感じられる貴重な機会となっています。

研究室には現在、学部生１１名、博士前期課程１３名、博士後期課程２名が所属しています。ゼミの特色の一つは、研究成果の学外発表に積極的に取り組んでいることで、大学院生だけでなく学部生も国内の学会で研究成果を発表しています。学外の研究者と議論する経験は、学生にとって大きな刺激となり、自信にもつながっています。さらに、卒業論文の内容を大学院で発展させ、海外で開催される国際学会で発表する学生もいます。

ゼミで大切にしているのは、データサイエンティストとしての一連の流れを身に付けることです。研究テーマは、学生がなんとなく「面白い」と感じたところからスタートします。その漠然とした興味をデータサイエンスの問題として捉え直し、解決する方法を見つけ、得た結果を評価し、それを他者に正しく伝える。この一連の過程を、卒業研究を通じて経験してもらいます。ゼミの発表では、学生一人ひとりが自分の研究に真剣に向き合い、試行錯誤を重ねた成果を報告しています。その姿を頼もしく見守りながら、これからも学生とともに研究に取り組んでいきたいと思います。



ゼミでの研究発表の様子

まく動いた！」という喜びを実感してもらえればと思っています。これは、モノづくりの実体験の一つです。

また、グループワークも重視しています。少し規模の大きなプログラムをグループで作成する演習では、お互いの考えをきちんと伝え合う必要があり、円滑に共同作業を進める力も養われます。

毎回のゼミでは課題を提示し、学生は個人やグループでその解決に挑みます。毎回が真剣勝負で、活発な議論と懸命な作業のうちに、あっという間に時間が過ぎるようなゼミを常に目指しています。

昨今は生成ＡＩの進歩が目覚ましく、プログラミングのあり方も変わりつつありますが、学びの場として、プログラミングを通じたモノづくりはこれからも続けていきたいと思っています。

資格取得報奨制度

「後援会資格取得等報奨制度」は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体を報奨することにより、学生の日頃の勉学等を支援し、資質の向上に資することを目的として、平成26年10月に創設され、その後、データサイエンス学部の設置等に伴い、対象試験等の一部を改正しています。

令和7年度下半期申請分（令和7年10月から令和8年3月受理分）については、下表のとおり、５８件に対して給付されました。

学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聞かれ、今後も、多くの学生諸君から応募していただけるよう願っています。

また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしていますが、保護者の皆さまにおかれましても、ご覧いただいた上で、お子様にお伝えいただきたく存じます。

今後も、より良い制度に改善していきたいと考えておりますので、会員の皆さまからも是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。

令和７年度下半期分　滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会資格取得等報奨金審査結果

（令和７年１０月～令和８年３月末日までの受理分）　　（令和８年７月役員会審査分）

分類	サポート対象事項	基準	報奨額（円）	申請件数	給付件数	給付金額	給付者氏名（敬称略）（回生は申請時）
資格・認定試験	１．日商簿記検定試験	「１級」合格者	70,000	2	2	140,000	米澤咲良（経済学部4回生） 川上碧空（経済学部3回生）
	２．税理士試験 （申請は、基準①、②のいずれか１回に限る。）	① 会計学に属する科目の中から、いずれか１科目合格者	30,000	3	3	90,000	杉本康太（経済学部4回生） 西尾貞弥（経済学部3回生） 他１名
		２科目同時合格者	50,000	1	1	50,000	西村陸（経済学部3回生）
		② 税法科目から、いずれか１科目合格	40,000	0	0	0	
	３．公認会計士試験	「短答式試験」合格者	50,000	4	4	200,000	服部想生（経済学部4回生） 山内聖太（経済学部4回生） 但馬百花（経済学部4回生） 川上碧空（経済学部3回生）
		「論文式試験」合格者	100,000	4	4	400,000	服部想生（経済学部4回生） 河野快（経済学部4回生） 河合咲依（経済学部4回生） 他１名
	４．中小企業診断士	資格取得者	50,000	1	1	50,000	１名
	５．証券アナリスト試験	「第１次レベル試験」合格者	30,000	0	0	0	
		「第２次レベル試験」合格者	40,000	1	1	40,000	伊藤凜月（経済学部3回生）
	６．応用情報技術者試験	合格者	30,000	2	2	60,000	水谷旭陽（DS学部3回生） 久世空汰（大学院DS研究科1回生）
	７．情報処理技術者資格（高度試験）	９区分から、いずれか１科目合格者	50,000	1	1	50,000	竹澤豪（大学院DS研究科2回生）
	８．品質管理検定	「１級」合格者	50,000	0	0	0	
	９．統計検定	「１級」の「統計数理」、「統計応用」いずれか１科目合格者	50,000	0	0	0	
		「１級」　２科目目合格者	20,000	0	0	0	
		「準１級」合格者	30,000	15	13	390,000	今村奏斗（経済学部3回生） 井上陽向（DS学部4回生） 高橋昇吾（DS学部4回生） 石橋僚太郎（DS学部3回生） 小川晃弘（DS学部2回生） 小田裕明（DS学部2回生） 高田樹晟（DS学部2回生） 林祐樹（DS学部2回生） 國領嘉人（大学院DS研究科1回生） 他４名
語学試験	１０．TOEIC（公開テスト）	８００点以上	30,000	11	11	330,000	吉村洸祐（経済学部4回生） 三木陸永（経済学部4回生） 山本蒼太（経済学部3回生） 柴田龍（経済学部1回生） 中根颯斗（経済学部1回生） 高橋昇吾（DS学部4回生） 他５名
		９００点以上	50,000	14	13	650,000	佐藤光成（経済学部4回生） 高木彩瑛（経済学部3回生） 藤井遥大（経済学部3回生） 乾良大朗（経済学部3回生） 青木寛杜（経済学部3回生） 石川美音（経済学部3回生） 鈴木悠清（経済学部3回生） 馬場陸太（経済学部3回生） 村上潤弥（経済学部3回生） 野村実央（DS学部3回生） 他３名
	１１．英語以外の外国語検定		30,000	0	0	0	
留学	１２．本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏	40,000	0	0	0	
		その他	80,000	1	1	80,000	坪井友紀乃（大学院経済学研究科2回生）
その他	１３．その他	IEEE「GCCE2025」論文賞・優秀口頭発表賞	50,000	1	1	50,000	戸簾隼人（大学院DS研究科1回生）
						0	
	合　計　（振込手数料は除く）			61	58	**2,580,000**	

注１．）給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。
注２．）英語以外の外国語検定に関しては申請のあったもののみ項目掲載しています。
注３．）TOEIC-IPは支給の対象外です。

報奨金受給者の声

『ＴＯＥＩＣ９００点以上』

データサイエンス学部　４回生
野村実央



私がＴＯＥＩＣ９００点を超えるまで約７か月間勉強を続けました。最初は英単語の覚え直しや文法の復習から始めました。休みの日には必ずテスト１回分の問題集を解き、見直しをして知らない単語や文法をノートにまとめました。

初めて公開会場で受けたＴＯＥＩＣは８６０点でした。会場によってリスニングの音質に差があるため、比較的安定してスコアを伸ばせるリーディングの中でも、私の苦手なＰａｒｔ６を中心に勉強を進めました。伸び悩んだこともありましたが、毎回点数を記録することで自分の努力が数字として可視化され、モチベーションにつながりました。その後何度か受験し、ＴＯＥＩＣ９３５点を取得することができました。

ＴＯＥＩＣの勉強を通して、英語を読む力・聞く力は身についたものの、実際に英語でのコミュニケーション力はまだ足りないと感じていました。そこで、英語で自然に会話ができるようになりたいという思いから英会話を始めました。現在も毎日英語に触れ、少しずつ英語力が上がっていると感じています。

何事も一日にしてならず！

この言葉を意識し、これからも日々の積み重ねを大切にして勉強を続けていきたいと考えています。

『税理士試験　財務諸表論合格』

経済学部　４回生
西尾　貞弥



私は税理士試験財務諸表論に合格しました。財務諸表論は、計算問題と理論問題に分かれているため、計算の精度向上と会計理論の暗記を両立することが必要でした。膨大な会計理論を単に丸暗記するのではなく、制度の背景や趣旨、会計理論同士の繋がりを理解して自分の言葉で説明できるように反復学習を徹底しました。

私が最も意識していたのは、自分に甘えず継続して勉強することでした。最初から効率性を考えるのではなく、どれだけ勉強時間を確保できるかが大切であると考えました。そのため、初めは知らない用語ばかりで理解に苦しみどのように対処していけばよいか困惑しましたが、モチベーションが上がらない日であっても、とりあえず机に座って３０分だけでも計算問題を解いたり、隙間時間を探して理論暗記を行うなど欠かさず計算・理論に向き合いました。特に直前期は模試の結果に一喜一憂し、焦りなどもありましたが、これらを継続し、勉強から逃げないようにしました。このことが合格に繋がり、自分自身の大きな成長に繋がったと思います。

試験勉強をする長い期間、家族や友人から応援してもらえたり、様々な面で支えてもらいました。家族や友人への感謝を忘れず、今後も税理士試験税法科目の合格を目指し、努力していきたいです。

編集後記

後援会だよりは次のＵＲＬ・ＱＲコードでもご覧いただけます。

https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters/31/

後援会だよりの記事についての感想や要望、後援会に対する要望、ご意見等を左記の受付フォームよりお聞かせください。

https://forms.cloud.microsoft/r/m83b4y1XDM